

事務事業評価表（一般事業）

1 事業名	地域医療体制推進事業	コード	44101
-------	------------	-----	-------

2 担当部課	部等 健康福祉部	課等 健康推進課	作成者 上原 幸代
--------	----------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	ともに支えあい、健やかに暮らせるまち		
		政策	保健・医療の充実	施策	医療体制の充実
		予算科目	保健衛生総務管理費	業務委託	全部委託
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	医療法		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	休日の緊急医療受入れ態勢を確立させ、かつ円滑に運用させることにより、緊急医療の需要に応じる。		
目的	対象者	市民	
	意図	休日でも安心して医療を受けることができる。	

5 事業の実施内容		*29年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
<p>・休日在宅当番医制事業・・・休日での初期救急医療確保のため、岡谷市医師会へ委託して実施した。</p> <p>（実施日数） 73日</p> <p>（受診者数） 2,763人</p> <p>（委託料） 1,790,000円</p>			
前年度の課題への対応			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区分	27年度	28年度	29年度	30年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	年間総受診者数			単位	人
	実績値	3,288	2,893	2,763	
	*指標の説明	平成28年度からは、休日在宅当番医制事業の受診者数			
② 成果指標（指標名）	年間総受診者数			単位	人
	目標値	3,477	3,288	2,893	2,763
	実績値	3,288	2,893	2,763	
	達成度	94.6%	88.0%	95.5%	
	*指標の説明	平成28年度からは、休日在宅当番医制事業の受診者数			
*目標値の設定方法の説明	前年度実績値				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
① 直接事業費	4,196,400	1,758,000	1,790,000	1,917,000
経常経費	4,196,400	1,758,000	1,790,000	1,917,000
臨時的経費	0	0	0	0
* 臨時的経費の説明				
区分	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
② 人件費	3,200,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.40	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	7,396,400	4,158,000	4,190,000	4,317,000
前年度比		56.2%	100.8%	103.0%
財源	7,396,400	4,158,000	4,190,000	4,317,000
一般財源				
内訳	0	0	0	0
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	2,250	1,437	1,516	
前年度比		63.9%	105.5%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名	27年度	28年度	29年度	30年度(予算)
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
	件数			
	金額			
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

● 事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標（項目7/住民の満足度）は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 95.5%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 95.5%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 特記事項なし	
	(上記の課題をふまえて30年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 特記事項なし	
改善方法		
改善開始時期		

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による30年度の優先度 *H28年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---